

気になったから勝手に調べた ブログ

11月号「芸術の秋とAIの進化」

気が付けばAIの進化はすさまじく、昔は会話だけでも「すげー！パソコンの中に小さい人が住んどるんじゃない！」と思っていたのが、最近ではそんなこと当たり前！文章やイラストを書いたり、資料作成や勉強のサポート、作曲や手相を見たり。もー出来ない事を探す事が出来ないかも！とそんなことを思いつつ、今回は「芸術の秋とAIの進化」について簡単に調べてみました。



AIの歴史をざっくりまとめるとこんな感じ

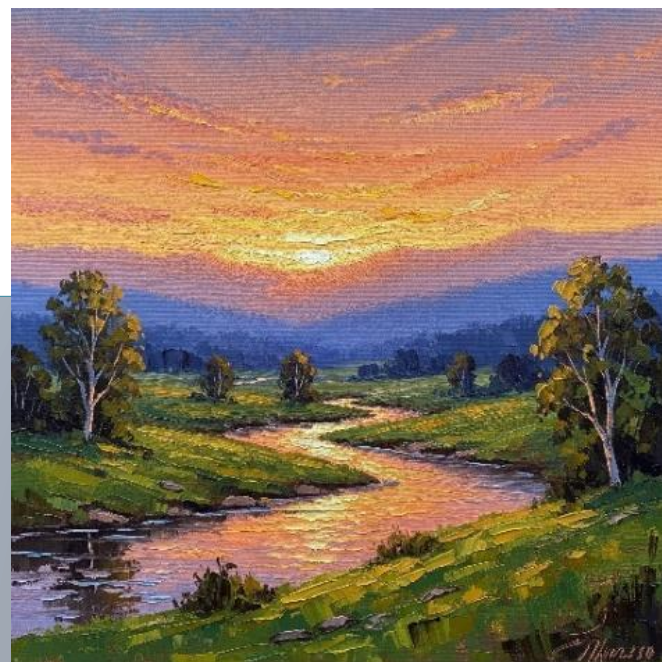
1943～1956年：人工ニューロンの概念誕生、AIという言葉も登場
1960～1980年代：初期AI（人間が与えたルールや知識に基づいて、特定のタスクをこなすプログラム）
→ 性能の限界で停滞 「AIの冬」
1997～2016年：学習AI「ディープラーニング」が登場
2020年代：chatGPTやGeminiなどの生成AIが普及、
文章やイラストなど作れるように



そもそも、なぜ「芸術の秋」と呼ばれているのか？

夏ほど暑くなく、冬ほど寒くもない秋は、心にゆとりが生まれ、澄み渡る空気の中で紅葉や月の美しい景色、虫の音色や収穫の実りなど、さまざまなものに心を刺激されます。
さらに、明治以降には「芸術鑑賞」が広まり、秋には展覧会や音楽会が多く開かれていました。
こうしたことがあり、秋は「芸術の秋」と呼ばれるようになったそうです。
でも、最近の秋は暑いからどうなるか？

私が文章を書くようになったのは、以前広報誌の作成を手伝っていたことがきっかけです。
簡単な文しか書いた事がなかったので、睡眠や食事以外の時間はひたすら勉強しました。
入試より勉強したかも？そして、ついには編集長の右腕になりました！・・・嘘です。本当は片手の指が余るほどの小さなチームの中で自動的にリーダー的な存在になっていただけです。
それは置いて。何年もかけた努力が、キーワードの入力で簡単に文を書く「AI」が大嫌でした。
ところが情報収集に使ってみると、知りたいことを丁寧に教えてくれたり、何回質問しても怒らないし「なんて便利なんだ！」と感じ、大嫌いだった「奴」が、今ではかけがえのない存在です。
右のイラストは「彼」に指示を出して作ったものですが、最初は山がなかったり川が細すぎたりイメージと違ったので、何度も修正を重ねてやっと理想の形になりました。
未来では、人間の頭の中で生れた「想像」を、AIが「創造」する。
そんな作品も、芸術と呼ばれている時代になっているかもしれませんね。
・・・しかし「彼」って気色わる～(^.^;



次回は「なぜ冬は太りやすいのか？」
の予定です。